

Topic 01

地域交流研究センターの展示がリニューアルしました

地域交流研究センターには展示スペースがあります。今回は、20周年を迎えた機関誌『フィールド・ノート』の歴史を振り返る展示です。大学周辺の身近な野生動物に関する実物標本もあわせて展示しています。いずれも野外へいざなうことを目的とした展示となっています。気軽にいらしてください。



Topic 02

地域交流研究センターの表示サインが誕生しました

現在、地域交流研究センターは、4号館の1階にあります。その場所を示す表示サインを作りました。英語表記は、「Research Center for Community Collaborations」です。自然もコミュニティーの一員ととらえ、人間と自然の共生を含む協働のあり方をともに考えましょう、という想いを込めました。(青木宏希 地域交流研究センター教員)



Topic 03 ???

4号館前の芝生広場にはモグラが暮らしています。この芝生広場と歩道のあいだには段差があり、モグラはいったん歩道に落ちると芝生広場に戻ることができません。そこで、モグラが無事に芝生広場に戻れるよう専用のスロープを制作してみました。モグラが壁を伝って移動する習性を利用したものです。爪をかけて傾斜をうまく登れるようにニホンリスによるクルミの食べ痕を埋めてみました。(青木宏希 地域交流研究センター教員)



コラム キャンパスの自然だより

都留文科大学のキャンパスには絶滅危惧植物が暮らしています。これって実はすごいことなのですが、あまり知られていません。たとえば、黄色い花のキンラン（金蘭）、白い清楚な花のギンラン（銀蘭）。キャンパスの一角で仲良く並んで咲いているので、私はキンさんギンさんと呼んでいます。蘭は発芽や成長に菌類との共生が必要で生育できる環境に限られます。絶滅危惧植物が“ふつう”にいるキャンパス、素敵ですよ。キンさんギンさんがこれからも“ふつう”に暮らせるよう皆さんもぜひ見守ってください。(別宮有紀子 学校教育学科教員)

お知らせ 「持続可能な地域づくりの推進に関する連携協定」を締結しました

5月18日(水)都留市役所において、本学と都留市、富士急行株式会社の三者による「持続可能な地域づくりの推進に関する連携協定」の調印式が開催され同協定を締結しました。協定締結後には、富士急グループから、本学が取り組む地域をフィールドとする教育研究活動を支援するため、富士急行線全線と市内運行バスの無料乗車許可証が貸与されるなど、今後ともそれぞれの事業の発展と、教育・研究の充実に寄与することが期待できる協定締結となりました。

TSURU FIELD MUSEUM NEWS

都留文科大学
地域交流研究センター
Research Center for Community Collaborations



ニホンリス *Sciurus lis* Japanese squirrel
本学のキャンパスの森で出会えます。
九州では絶滅したと考えられています。

vol. 02
2022 October



地域交流研究センター

〒402-8555 山梨県都留市田原3-8-1 4号館1階
☎0554-43-4341(内線606) ✉ckouryu@tsuru.ac.jp
◀左のロゴは、人と人、人と自然の結びつきをイメージして制作しました



都留文科大学 WEB 都留文科大学 twitter 地域交流研究センター twitter



地域交流研究センターとは

地域交流研究センターは、都留文科大学と地域をつなぐさまざまな活動と研究に取り組むための拠点です。地域は、人びとが生まれ育ち、自然とかかわりながら暮らし、文化と歴史を刻みつけている現場です。そこには、自然・人間・社会のあり方を問いなおす手がかりがあります。地域交流研究センターは、活動を通して、地域全体を博物館（ミュージアム）ととらえる「都留フィールド・ミュージアム」構想を推進していきます。

都留フィールド・ミュージアム

地域交流研究センターでは、地域そのものを博物館（ミュージアム）に見立て、身近な自然や文化に親しみ、じかに触れ、学びあう「都留フィールド・ミュージアム」構想を推進しています。人間探究を掲げる都留文科大学にふさわしいこのような取り組みを受け継ぎ、発展させていくことを目的に地域交流研究センターが発足しました。

地域交流研究センター

地域交流研究センターの4つの部門では、自然との共生や教育、暮らしと仕事など地域の現代的な課題に応じて、自然科学や人文・社会科学といった領域を総合した取り組みをしています。学科や学年の枠を超えて参加できる活動が多いのも特徴です。フィールドでの実地の経験は、大学での学びを深める契機になります。2022年度、前期のおもな活動を紹介いたします。

自然共生研究部門

ムササビ観察バスツアー

この観察会は、ムササビをじかに観ることで地域の自然との共生のあり方を参加者のみなさんと考えようとするものです。学生スタッフは、この観察会を実施することで、卒業後、地域で自ら観察会を運営できる能力を身につけます。7月23日と27日に開催し、子どもから大人まで30名の参加がありました。ムササビの滑空や木に登る様子、鳴き声などが観察でき、「人生ではじめてムササビと出会いました」といった感想が寄せられました。(北垣憲仁 地域交流研究センター教員)



湧水さんぽ

大学がある東桂地区を歩くと、至るところに水路が張り巡らされ、澄んだ水が流れている光景に出会えます。東桂には水路の水源となる湧水地がたくさんあり、十日市場・夏狩湧水群と名付けられています。なぜこの地でたくさん湧水しているのか、大学教員の説明を聞きながら湧水地をめぐる「湧水さんぽ」を7月9日に行いました。暑い日でしたが6名の参加があり、水の冷たさを楽しみながら、富士山の溶岩から湧き出す水の様子をみんな熱心に観察しました。(内山美恵子 学校教育学科教員)



谷ニラボ

今年度第1回の谷ニラボ「ふしぎなお絵かき：無色とうめいの水でかいたのに？」を6月22日に行いました。あらかじめBTB溶液（pH指示薬の一種）に浸して乾かした画用紙をたくさん用意しておきます。画用紙そのものが弱酸性で、画用紙は黄色に染まります。これに、無色透明の弱アルカリ性の液を筆につけて紙に描くと、青色で描けるというしくみです。当日は児童36人の参加があり、色の変化に歓声があがっていました。(山森美穂 学校教育学科教員)



共生教育研究部門

地域美術教育分野

地域の教育機関と連携して造形活動を行なっています。大学生の皆さんと地域の子供たちが交流し、互いに想像力を高め合います。陶芸体験では、粘土を使ってかたちを作り表面に表情をつけてマグカップの製作を行います。作り上げた作品は、最初に自然乾燥させ、その後、素焼きの工程を経て施釉を行い、最終的に本焼成を行います。これらの多くの工程も大学生の皆さんと行ないます。完成した作品は、地域交流研究センターで作品展示を行ないました。(青木宏希 地域交流研究センター教員)



地域インクルーシブ教育分野

クロスボーダープロジェクト（通称 クロボ）は、障がい、いじめ、不登校、ひきこもりなど、地域のニーズのある人たちの週末の居場所づくりの活動で、月1回土曜日（10:00～15:00）に学内で開催しています。学生・教員そして市民のボランティアで運営し、バラスポーツ、アート、音楽、てがつく、環境学習、キャリア学習などの活動を行っています。お昼休みには、ウノやジェンガなどで遊びながら「おしゃべりの時間」を取っています。ゆるくまったりとした雰囲気を大切にしています。(堤英俊 学校教育学科教員)



社会教育分野

つる地域教材研究では、2022年度「みる」「観察」をテーマに、地域を舞台とした学びについての研究を進めています。大学院生と教員と一緒に、大学近くの森でのフィールドワークや、都留フィールド・ミュージアム構想の勉強会、「みる」「観察」のテーマに沿った海外文献の講読を行っています。研究成果は年度末に報告書としてまとめ、広く発信していく予定です。(邊見信 学校教育学科教員)



② 見出し横のロゴについて：ニホンリスがクルミの実を食べた痕をモチーフにしています。こうした食べ痕も動物の暮らしを知る重要な手掛かりになります。

まちづくり研究部門

「ぶらっとはうす」：無人駅舎である富士山麓電気鉄道線「谷村町駅」で放課後の子どもたちの居場所づくり「ぶらっとはうす」は、2年ぶりに定期的に開催しました。8月は「宿題やつけ隊」を開催、大勢の子どもたちで駅舎が賑わいました。

観光ツアープロジェクト：富士急行株式会社及び都留市と連携し、沿線地域の活性化を目指して「山ガール」「マイクロリズム」をテーマにした2本のツアーを11月に開催すべく、企画や準備に取り組んでいます。(鈴木健大 地域社会学科教員)



グローバル交流研究部門

2年間、新型コロナウイルス感染症により中止となっていた交換留学が、今年度ようやく再開されることとなりました。今後、留学生と交流する機会を少しずつ増やしていきたいと思えます。今年度は、後期（11月）に留学生を交えた自然観察会を開催する予定となっています。(原和久 国際教育学科教員)



地域交流研究センターのそのほかの事業

「市民公開講座」、「子ども公開講座」、「名画座（映画上映）」など、大学教員がもつ専門分野を活かしながら、大人から子どもまでを対象とした幅広い講座を数多く開催しています。今回は、「名画座」の様子をご紹介します。

名画座

7月29日（金）、3年ぶりに文大名画座を開催しました。本学の国文学科専任講師による解説とともに、原作・宮澤賢治、監督・高畑勲によるアニメーション映画「セロ弾きのゴーシュ」を鑑賞しました。一般・本学学生合わせて41名の参加があり、「原作と映像の表現の違いが面白かった」、「作品理解を深めてから映画を観ることができてよかった」、「自然の風景と音楽をたっぷり味わうことができてとても楽しかった」などの嬉しい感想が沢山寄せられました。(吉田恵理 国文学科教員)



子ども公開講座 ※講座名の後の数字は、写真番号に対応しています

- 7月17日（日）「ロンドンオリンピック選手と走ろう！佐野夢加のかけっこ教室」①
- 7月30日（土）「木工教室」②
- 7月31日（日）「陶芸にチャレンジ」③
- 8月16日（火）「色の不思議ーカラフルレインボータワーを作ろうー」④



市民公開講座

- 7月24日（土）「佐野夢加 かけっこ教室」④

出版・広報活動

地域交流研究センターの機関誌『フィールド・ノート』111号を発行しました。この冊子は、本学の学生が主体となり、地域の自然や文化を記録しています。本年度で20周年を迎えました。編集作業には学科や学年の枠をこえて多くの学生が参加しています。バックナンバーは、本学のホームページから閲覧できますし、過去の冊子はすべて地域交流研究センターに保管してあります。



ボランティア事業部

「文大ボランティアひろば」を開催しています。学生ボランティア同士のつながる場、地域のボランティアニーズを知る場として、月に1度、第1木曜日のお昼休み（12:30～13:00）に行っている自由参加の会です。内容は、ボランティア体験者の話や、募集中のボランティアの紹介をしています。また、小人数のグループに分かれて自己紹介や参加動機などを話し、ボランティア登録者同士の交流をしています。

